

秋田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	建築計画Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		0021		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1	
開設学科		創造システム工学科（空間デザインコース）		対象学年		4	
開設期		後期		週時間数		1	
教科書/教材		現代建築学 「建築計画Ⅱ」 建築都市計画のための「空間学事典」					
担当教員		鎌田 光明					
到達目標							
1.住宅の種類を把握し、それぞれの住宅の計画上的特徴について説明出来る。 2.公共建築の種類を把握し、それぞれの施設の計画上的特徴について説明出来る。 3.商業建築の種類を把握し、それぞれの施設の計画上的特徴について説明出来る。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		住宅の種類を把握し、それぞれの住宅の計画上的特徴についてスケールや使いやすさ・安全性を含め説明出来る。		住宅の種類を把握し、それぞれの住宅の計画上的特徴について説明出来る。		住宅の種類を把握し、それぞれの住宅の計画上的特徴について説明出来ない。	
評価項目2		公共建築の種類を把握し、それぞれの施設の計画上的特徴についてスケールや使いやすさ・安全性を含め説明出来る。		公共建築の種類を把握し、それぞれの施設の計画上的特徴について説明出来る。		公共建築の種類を把握し、それぞれの施設の計画上的特徴について説明出来ない。	
評価項目3		商業建築の種類を把握し、それぞれの施設の計画上的特徴についてスケールや使いやすさ・安全性を含め説明出来る。		商業建築の種類を把握し、それぞれの施設の計画上的特徴について説明出来る。		商業建築の種類を把握し、それぞれの施設の計画上的特徴について説明出来ない。	
学科の到達目標項目との関係							
(C)専門知識の充実 C-1							
教育方法等							
概要		建築計画・建築施設計画の基礎を理解し、設計・計画へ応用する知識を身につけることを目標とする。					
授業の進め方・方法		講義形式で行う。必要に応じてレポートを課す。					
注意点		合格点は60点である。試験結果を総合成績の80%とする。さらに、レポートの評価を20%とし、総合成績を100%とする。 レポートの未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。 設計・計画の根幹となる計画基礎では、人間工学に基づく寸法の設定がなされており、生活に活かされている。それを意識しながら学ぶことが知識の構築上重要である。また、用途による施設の違いを理解し、日々の生活の中で体験する空間について意識的に感じる事が大切である。 この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートやオンラインテストを実施します。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス・住宅（独立住宅）・（集合住宅）		授業の進め方と評価の仕方について説明する。独立住宅の計画が理解できる。集合住宅の計画が理解できる。		
		2週	住宅・高齢者,車いす利用者に対する配慮		住宅のバリアについて理解できる。		
		3週	教育施設 展示施設		教育施設の計画が理解できる。 展示施設の計画が理解できる。		
		4週	医療施設		医療施設の計画が理解できる。		
		5週	事務所建築		事務所の計画が理解できる。		
		6週	宿泊施設 劇場		宿泊施設の計画が理解できる。 劇場の計画が理解できる。		
		7週	学習の到達度について確認する		上記項目について学習した内容の理解度を確認する。		
		8週	学習の到達度の振り返り		上記項目について学習した内容の理解度のフィードバックを行う。		
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。		3	
				近現代都市の特質と課題について説明できる。		3	

				近代の都市計画論について説明できる。	3	
				現代にいたる都市計画論について説明できる。	3	
				市街地形成と都市交通のあり方について説明できる。	3	
				街路計画の手法と理念について説明できる。	3	
				日本の土地利用計画の仕組みについて説明できる。	3	
				方法・制度の変遷について説明できる。	3	
				景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。	3	
				市街地を開発する仕組みについて説明できる。	3	
				土地区画整理事業について説明できる。	3	
				市街地再開発事業について説明できる。	3	
				地区計画制度について説明できる。	3	
				建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	3	
				モジュールについて説明できる。	3	
				建築設計に関わる基本的な家具をはじめとする住設備機器などの寸法を知っている。	3	
				居住系施設(例えば、独立住宅、集合住宅など)の計画について説明できる。	3	
				教育や福祉系の施設(例えば、小学校、保育所、幼稚園、中・高・大学など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	
				文化・交流系の施設(例えば、美術館、博物館、図書館など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	
				医療・業務系の施設(例えば、オフィスビル、病院、オーディトリウム、宿泊施設等)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	
				建築計画・設計の手法一般について説明できる。	3	
				都市と農村の計画について説明できる。	3	
				古代(例えば、エジプト、オリエント、エーゲ海、ギリシャ、ローマなど)の特徴について説明できる。	3	
				中世(例えば、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシックなど)の特徴について説明できる。	3	
				近世(例えば、ルネサンス、マニエリスム、バロック、ロココなど)の特徴について説明できる。	3	
				原始(例えば、竪穴住居、高床建築、集落など)の特徴について説明できる。	3	
				古代(例えば、住宅建築、寝殿造、都市計画、神社建築、寺院建築など)の特徴について説明できる。	3	
				中世(例えば、住宅建築、神社建築、寺院建築(大仏様、禅宗様、折衷様など))の特徴について説明できる。	3	
				近世(例えば、住宅建築、書院造、数寄屋風書院、町屋、農家、茶室、霊廟、社寺建築、城郭)の特徴について説明できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	10	0	60
専門的能力	15	0	0	0	5	0	20
分野横断的能力	15	0	0	0	5	0	20